

第3章 地区の特徴

1 アンケート結果(令和2年8月末～9月末)

(1) 結果概要

資料編参照

今回のアンケートは、第3回目となります。過去2回のアンケートを受けて、より具体的なまちづくりの推進について問いかけることとし、自治会役員、各種団体等を対象に約500通を配布し、324件回収しました。これら寄せられたご意見は、地域のまちづくりビジョンにできる限り反映しました。

【地域の課題】

「中心市街地までの交通の便」が課題の一番に挙げられましたが、バス停までの距離があること、市内均一料金でないことが要因として考えられます。また「地域の連帯」についても、課題として挙げられています。これらは、第2回アンケートでも提起されています(18ページ参照)。「近隣関係の希薄化」、「自治会関連」が課題の上位を占め、「交通安全」も選択肢と自由筆記に共通して提起されています。地域差を見ると、「交通の便」、「ふん害」が栗野西で、「地域の連帯」、「情報入手難」は、栗野東で多く回答が寄せられています。

また、不安に感じていることは、「高齢化」、「防災」、「交通安全」の順に多く、前2者は我が国の大きな社会課題でもあることに対し、交通安全(通過交通・騒音)は地区に特徴的な課題と言えます。高齢化の不安は、健康面、防災では災害時の避難方法と避難先が具体的に挙げられています。また、高齢化に伴う家屋や田畑の管理が課題となっています。粗大ごみの搬出や掃除など家事支援の有償ボランティアの利用についても、一定の需要があります。子育てでは、仕事との両立や安全が課題として挙がっていますが、教育への関心が最も高くなっています。

前回アンケートで挙げられた課題の改善状況を尋ねたところ、改善していない課題は、「ふん害」、「交通安全」、「ポイ捨て」の順に多く、引き続きまちづくりのテーマとなっています。

【まちづくりの取り組み】

まちづくり協議会に期待される役割として重要なのは、「自治会と各種団体の連携」、「高齢者支援の促進」、「子育て支援の促進」の順に多く、まさに自治会と各種団体の連携による効果的な活動の地域への波及が求められています。

住民の参加を促進するためには、「個人の負担を軽くする」、「日常的に取り組める活動を促進する」、「必要がなくなった活動がないか検証する」、「地域への愛着を深めてもらう」が多く、念頭に置きたい考え方と言えます。

より効果的・効率的にまちづくりを推進するためには、「課題を写真や動画で共有する」、「訓練や奉仕活動等に楽しんで参加できる企画を盛り込む」、「地域デビュー講座を開催する」ことの必要性が提起されています。

魅力的なイベント企画については、「フリーマーケットのようなだれもが参加できる企画」、「子

どもを対象とした企画」、「本物に出会える企画」など、企画する際の参考になります。

情報の提供に関し、インターネットの利活用について尋ねたところ、60歳以上が回答者の半数近くを占める中、スマホ、パソコン、携帯電話の利用者が多く、インターネットやメールを利用しない人は、比較的少数でした。紙媒体と並行してこれらの情報機器の活用も、今後積極的に検討する必要があります。

また、まちの課題解決に対して、公益法人やNPO等との連携について、「専門的なノウハウを活用」、「担い手不足の分野の補完」、「幅広いニーズに対応」が多く寄せられました。依存傾向に陥らないよう留意しつつ、効率的・効果的なまちづくりを進める上で、検討する余地があります。

市との協働を深化させるために必要なことを尋ねたところ、「地域の提案に対して合同で検討・計画立案する」が最も多く、「市と地域が互いに学び合う」場が必要との回答も多く寄せられています。

【自由筆記ではこんな意見もありました。(抜粋)】

- フリーマーケットのような自由に参加できる企画や、世代に関係なく参加できる交流イベントが必要。
- 毎年この行事で人を集めなければという、その場限りのことに集中するよりも、誰もが「ほっこりする」ものがあれば良い。
- まずは、地域全体の清掃でなく、各家の周りの清掃日を決めて行う「清掃の日」を定める。
- 子どもや大人、みんなで新しい未来をつくっていききたい。
- 一般の人はまちづくり協議会の存在すら分かっていないと思う。
- 日々忙しい人も多いので、何かの活動をするというのは難しいが、あいさつを交わしたり、見守り隊の人にお礼を言ったり、些細なことが地域力につながる。
- 住民の連携、自治会の強化が、まちづくりに反映される。
- 30～40代の人々の地域参画が喫緊の課題。
- 小学生や中学生が良く挨拶をしてくれ、うれしい。大人も挨拶せねば。
- 自然や歴史を大切にしよう、そして知ってもらうために、もっと発信。
- イベントの一つとして、「地域防災訓練」の内容を一新して、みんなの関心を引き、一致団結してはどうか。
- 「子供の面倒を見る」、「高齢者の送迎」など、ボランティアやコミュニティビジネスなど、生活上のメリットにつながる活動が生まれると良い。
- 防災無線が聞き取れないため、地域や市のホームページを検索しても記載がありません。WEB上に載せて、いつもここを見ればわかるようにしてほしい。
- 夏まつりや盆踊りなど、自分が楽しかったことを、子どもたちにもつなげたい。
- 小さなお子さんがいる家庭だけでなく、誰もが参加できるイベントを開催。
- 地域の方にコミュニティスクールに参加していただく等、知り合いになるきっかけがあると良い。
- 地域の方のご協力がとても感じられます。子を持つ母として、学校に力を貸して下さることが本当にありがたく思います。

(2) 過去のアンケート結果概要

岩野田北まちづくり協議会では、まちづくりに関するアンケートを平成 16 年度(各世帯対象・回答者数 1334 世帯)と平成 29 年度(自治会役員・各種団体対象・回答者数 216 件)に実施しました。2 回目は意識変化を比較するためではなく、1 回目のアンケートを補完し、まちづくりの意味を確認する内容になっています。以下は、過去のアンケート結果概要です。

【困りごと・悩みごと】

第 1 回目のアンケート(平成 16 年 12 月)では、豪雨災害が全国で発生したことや相次ぐ地震の発生が背景にあったこともあってか、「防災」が大きな課題とされ、次いで、「高齢化」が多く寄せられました。第 2 回目のアンケート(平成 29 年 5 月)では、「高齢化」が 1 位、「防災」が 2 位と順位は逆転しました。3 位は、どちらも、「防犯」や「交通安全」で、防災・防犯・交通安全など、安全な生活環境が求められています。

また、第 1 回では「健康不安」、第 2 回では「不動産等の管理」などが高齢者の共通の悩みになっています。高齢者にとって暮らしやすいまち、誰にも住み良いまちです。安心・安全に暮らすことのできる生活環境の達成は、まちづくりの柱の一つと言えます。

【地域の課題】

第 1 回目のアンケートでは、直接的に地域課題を問う設問はありませんでしたが、第 2 回目は、「交通の便」、「地域の連携」、「ポイ捨て」、「高齢者の生活」、「郷土の歴史文化が知られていないこと」が課題として挙げられました。

まちづくり協議会では、2 回目のアンケートを踏まえ、高齢者支援、交通の利便性対策として「コミバスの運行」に参画し、岩野田地区と合同で令和元年 9 月に試行運行を開始しました。令和 2 年からは、地域の連携強化の一環として「まちづくりサロン」と「ホームページ」を開設しました。

【まちづくりの主眼点】

第 1 回目のアンケートで、まちづくりの主眼(必要条件)として、「子ども育成のための地域連携」、「自家用車に頼らない環境づくり」、「歩行者の安全環境づくり」、「高齢者や子どもを大切にすることの意識醸成」、「住民と市との協働推進」が挙げられました。

車依存や歩行者の危険性など、郊外部ならではの特徴と課題が凝縮された地域として、ここでも安心・安全のまちづくりを求める声が寄せられています。

また、子どもや高齢者が主体的に地域に参加し、かつ育ち合うことのできる地域社会の形成についても、基本的なまちづくりの柱の一つとして検討する必要があります。

さらに、市との協働の推進については、第 2 回目のアンケートでも、まちづくりの担い手に関する設問に対して、「地域と行政の役割分担・連携」(20%)、「地域でできることは地域で実践」(20%)、「きめ細かな取り組みは地域で実践」(18%)、「広域災害時への地域の備え」(17%)が地域の果たすべき役割としてほぼ横並びで認識されています。これらはまちづくりの基本的な

考え方として、共有しておく必要があります。

【円滑なまちづくりを推進するための組織活動のあり方】

第1回目のアンケートでは、「役員の引継ぎ体制や役員交代のルール」、「自治会・各種団体の連携」、「自治会加入促進」、「行事の選択と集中」が挙げられました。

第2回目では、「自治会・各種団体の連携」、「地域の情報周知」、「公民館等の活用」、「住民意見の反映」、「ボランティアの活性化」の順に挙げられています。

「自治会・各種団体の連携」と「ノウハウの蓄積・継承(引継ぎ)」及び「地域の情報周知」は、まちづくり協議会の最も基本的かつ重要な役割として再認識しなければなりません。今年度開設したホームページは、単に情報発信という視点だけではなく、まちづくり情報を蓄積・継承する意義があります。また、他の事項についても、まちづくりの基本的な進め方として、具体的な取り組みを計画する上で、留意する必要があります。

【まちづくり協議会への期待】

第1回目のアンケートでは、「防災・防犯」、「課題解決・発見」、「あいさつ運動」、「高齢者対応等福祉」、「まちづくり計画策定」が挙げられました。

第2回目では、「自治会・各種団体の連携」、「高齢者支援促進」、「子育て支援促進」、「防災促進」、「住民交流イベント開催」が挙げられました。

まちづくり協議会は、防犯対策として「青ハト安全活動」を継続実施、また、子どもを中心に据えた三世代交流の「夏まつり」など、各種イベントを実施してきました。

「課題解決・発見」、「まちづくり計画策定」は、地域ビジョン策定の作業プロセスであると同時に、まちづくり協議会の重要かつ継続的な役割として再認識する必要があります。

1回、2回のアンケートで共通して挙げられた「高齢者支援促進」、「防災」は、自治会・各種団体等の連携が特に求められる分野と言えます。一方、「子育て支援促進」も「あいさつ運動」と共に、地域ぐるみの取り組みが欠かせません。また、教育機関や地域包括支援センター、児童センターあるいは非営利法人等との相互連携について、協議し合うことも欠かせません。

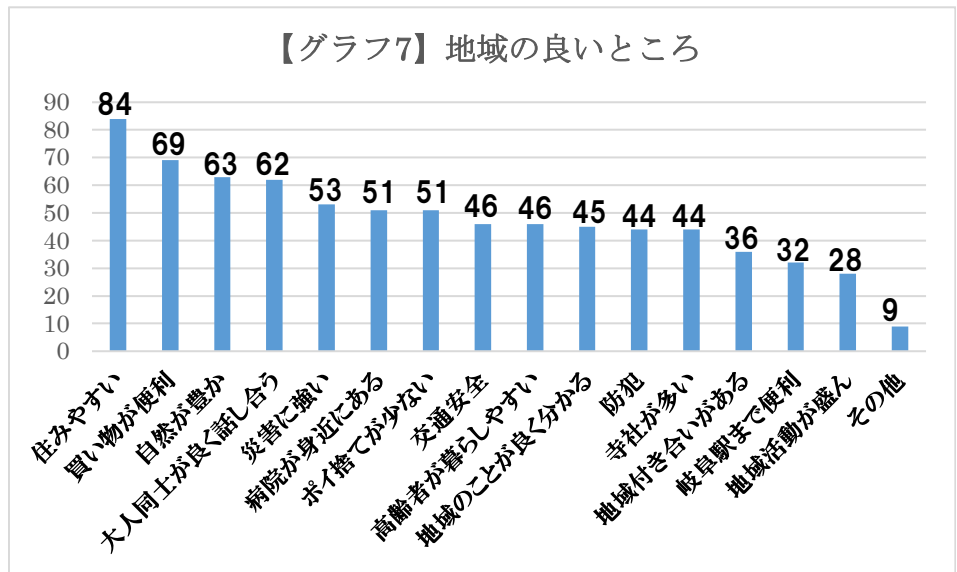
(3) 小・中学生のアンケート結果概要

今回初めて、小中学校の児童生徒を対象としたアンケートを実施しました。次代を担う子どもたちに、一緒にまちづくりに参画してもらおうとともに、夢や提案をまちづくりに生かしたいとの思いからです。そこには、私たちの気づかないような、大切なヒントがありました。とりわけ、40万都市としての居住環境を向上させるための抜本的な取り組みの必要性を、示唆しています。

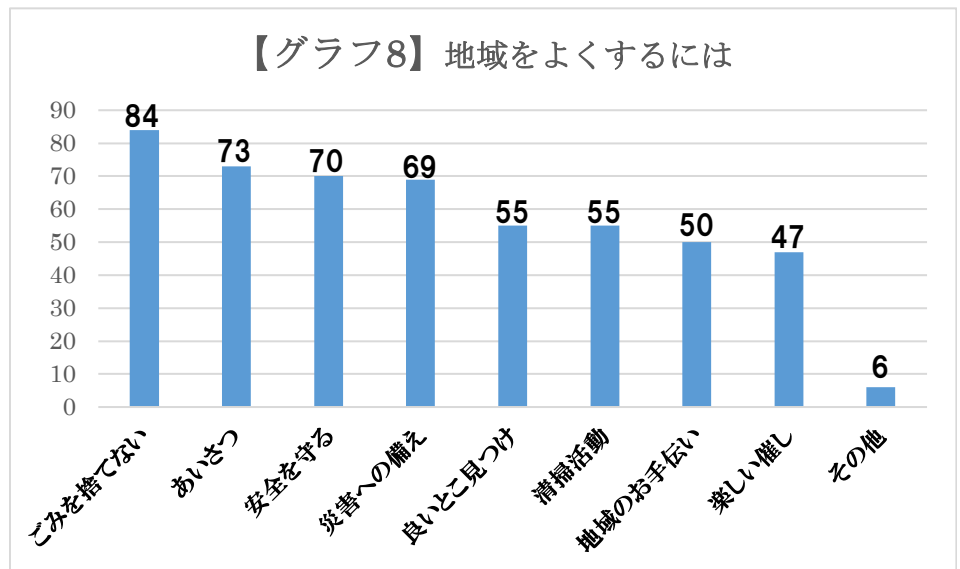
【岩野田北小学校 4 年生 112 人】

以下、数字は件数を示します。

●地域の良いところ

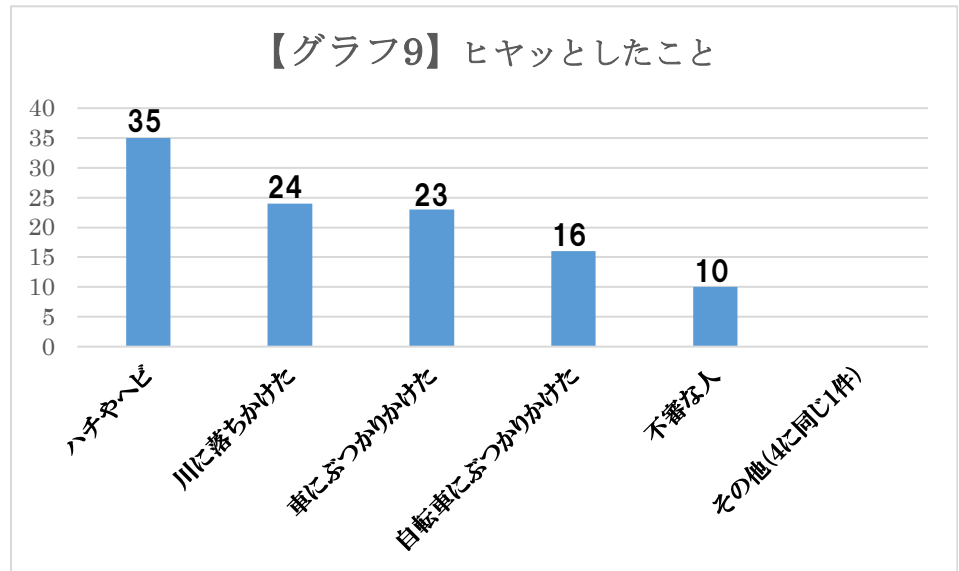


●地域を良くするには

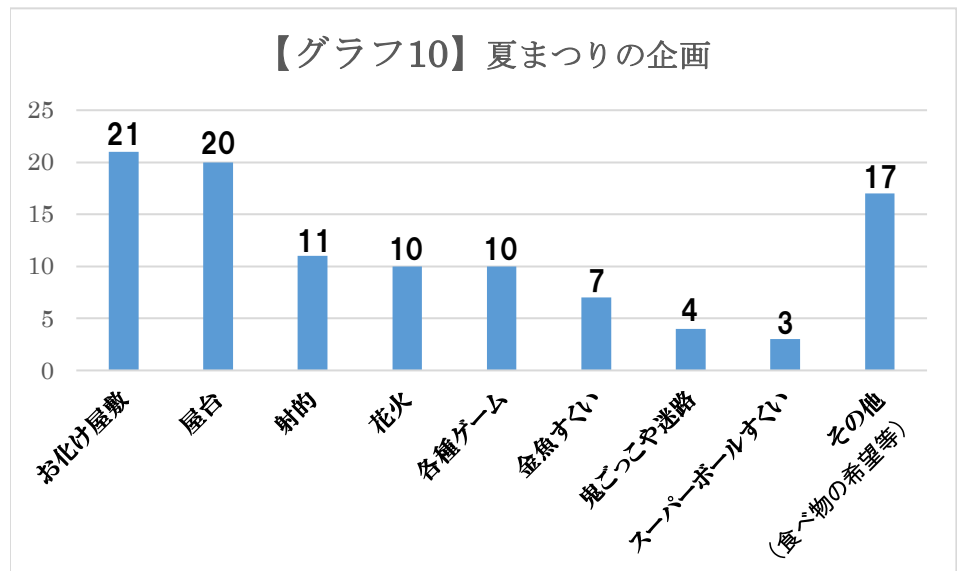


●ヒヤツとしたこと

※交通安全に対する指摘が自転車・車を合わせると39件と最多であることに注目。

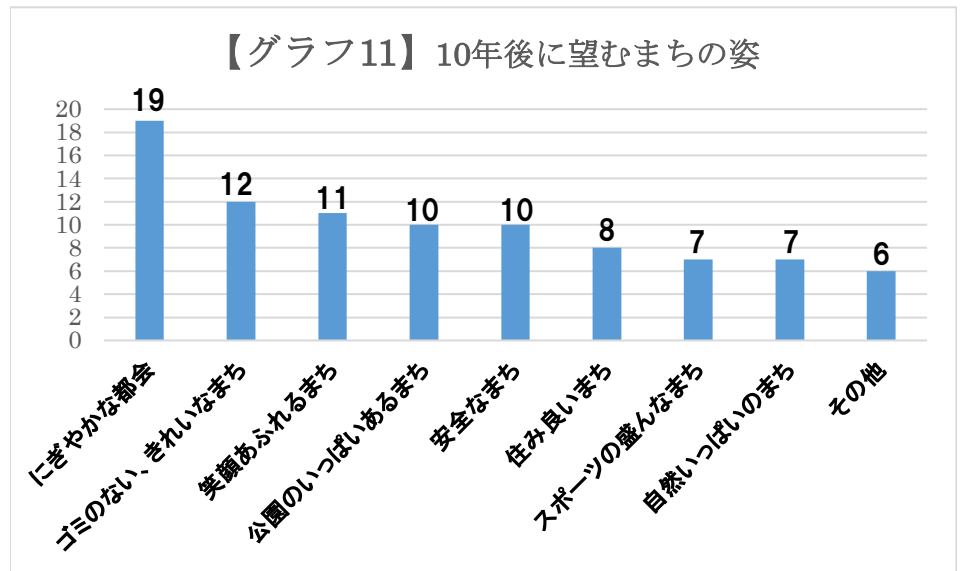


●夏まつりで企画してほしいこと



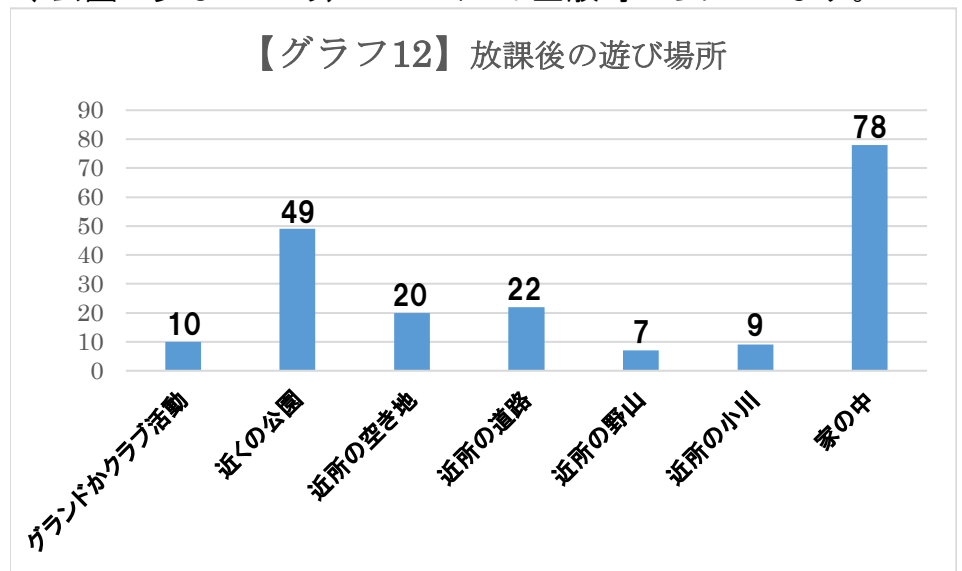
▶平成30年の夏祭り風景

●10年後どんな「まち」であってほしいか



●放課後の遊び場所

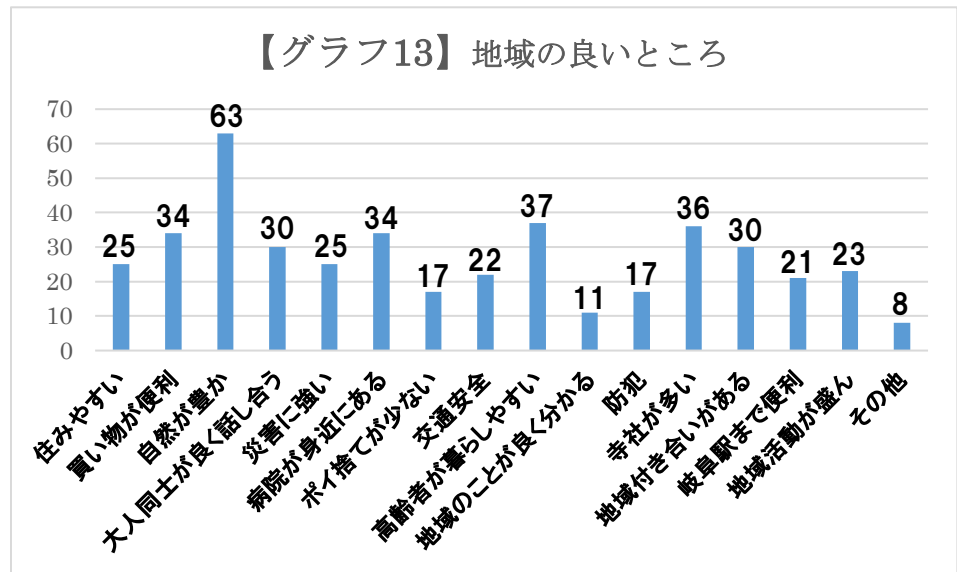
※公園の需要が多い一方で、公園が少ないという声がアンケート全般寄せられています。



【岩野田中学校 2 年生】

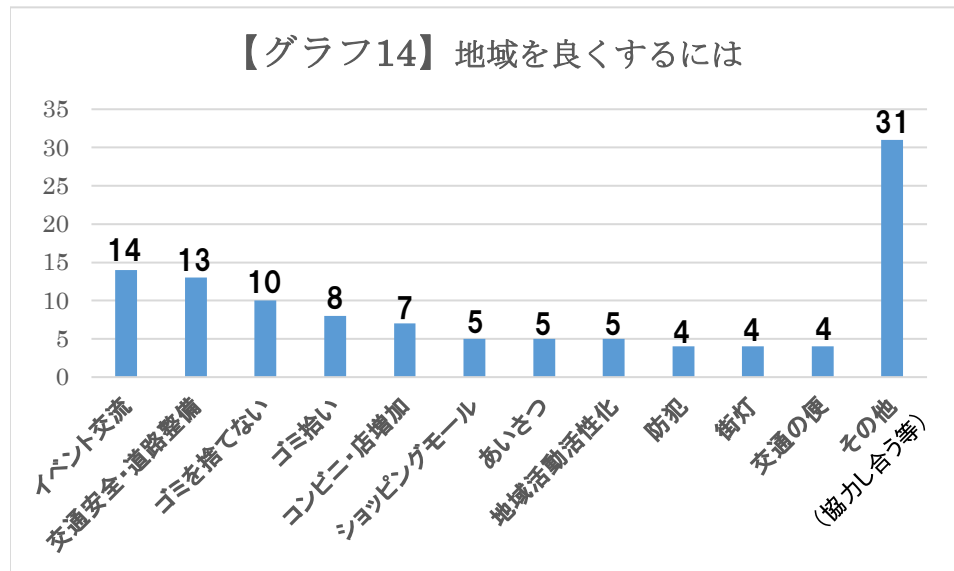
●地域の良いところ

【岩野田北校区 79 人】

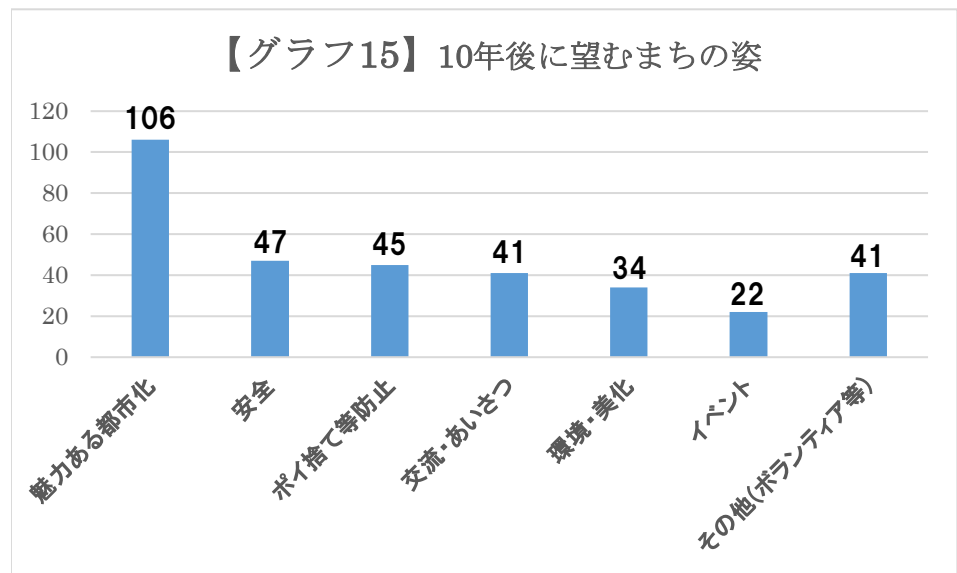


●地域を良くするには

【岩野田北校区 79 人】



●10年後どんなまちであってほしいか【2年生全員 139人】



2 「まちづくりの芽ファイル」を作ろう

アンケートでも寄せられたように、まちづくりの課題や資地域資源を発見し、みんなで共有しながら、課題解決や資源の活用を図ることが、着実にまちづくりを進めることに役立ちます。そこで、みんなで発見した「まちづくりの芽」をファイルしましょう。写真や動画を活用すると、より分かりやすくなります。

ここでは、例として、次世代のための都市環境づくり(13 ページ)に関連する「まちづくりの芽ファイル」を作成し、掲載します。これを参考に、さまざまな分野の課題や地域の資源について、みんなで持ち寄り、ファイルを蓄積し、共有していきたいですね。